

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/ヴォーカリストコース											
オリジナル作品制作2											
対象	1 年次	開講期	後期	区分		必修	有	種別	職種	実習	音楽家
時間数	30	単位	1	担当教員紹介							
<p>担当教員</p> <p>鈴木一義 / Ryuta</p> <p>実務経験</p> <p>有</p> <p>職種</p> <p>音楽家</p>											
<p>担当教員紹介</p> <p>Ryuta / Roland社製シンセサイザーのデモンストレーター、キーボーディスト・ボーカリスト・作編曲家、オカリナ奏者 キーボーディストとして数多くのコンサートやレコーディングに参加。特にゲーム・アニメ系の現場は多く「Game Symphony Japan」 「Animation Symphony Japan」それぞれのレジデンシャルアーティストとして継続して参加。また、アーティストへの楽曲提供から、カラオケ制 作や譜面作成、CMやイベントでのBGM制作とレコーディング、吹奏楽曲の作編曲まで幅広く請け負っている。オカリナ奏者としても活動し、CD 「アナスタシア～天空のセレナード～」をリリース、同CDのレコ発ワンマンライブを決行。</p>											
<p>授業概要</p> <p>鼻歌でメロディーを作り、コードを付け、歌詞を付けて、1曲歌もの楽曲を完成させることを目的とする。楽器が出来る学生は楽器を用いなが ら、またそうでない学生はクリエイターの学生とペアを組むなどしてメロディーとコードを作成する。イントロ、A、B、サビという歌もの のいわゆるひな形を理解し、この構成に則って制作を進めていく。必ず最後に発表をさせて、学生同士で意見交換などしていく。</p>											
<p>到達目標</p> <p>修了ライブに向けて或いは個人のアーティスト活動やオーディションで披露出来るオリジナル楽曲を作れるようになるため、具体的な実践を通 じて学んでいく。作詞・作曲の授業、音楽基礎の授業と関連付け、これらの授業の講師が連携を取り、状況を細かく確認しながら進めていく。</p>											
<p>授業方法</p> <p>作曲のスタイルにより指導内容が異なるため、それぞれが主に何の楽器を使用するのか、あるいは楽器を使用しないのか、DAWのみで行うのか 等を事前にヒアリングし、作業を進めていく。同じ到達目標を持つ授業である「作詞・作曲」「音楽基礎」と連携を取り、進み具合や学生状況を 共有認識した上で最終的な発表会に向けた指導を行う。</p>											
<p>成績評価方法</p> <p>試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価 平常点 10% 積極的な姿勢</p>											
<p>履修上の注意</p> <p>授業中の私語や受動態度などには厳しく対応する。授業に出席するだけでなく社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求 める。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
<p>教科書教材</p> <p>毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	イントロ、A、B、C、Dメロについて学ぶ										
第2回	イントロの作成方法や例を提示してイントロの作成手順について学ぶ										
第3回	イントロを実際に作ってみる										
第4回	Aメロの作り方や手法について学ぶ										
第5回	Aメロを実際に作ってみる										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/ヴォーカリストコース	
オリジナル作品制作2	
第6回	Bメロの作り方や手法について学ぶ
第7回	Bメロを実際に作ってみる
第8回	サビの作り方や手法について学ぶ
第9回	サビを実際に作ってみる
第10回	Cメロの作り方や手法について学ぶ
第11回	Cメロを実際に作ってみる
第12回	2～11回で制作した曲をフルコーラスで完成させる。質問やアドバイスは随時受け付ける
第13回	2～11回で制作した曲をフルコーラスで完成させる。完成した曲のチェックを行う
第14回	最終確認を行う
第15回	国内特殊事情としてのバブル時代からバブル後の音楽シーンへの流れの分析と把握。そして現在へと繋がる流れを確認する。